

瀬織津姫（**巖之御魂天疎向津媛**）

伊雑宮の玉柱姫→天照大神妃、天照大神分身（天照大神荒魂）→西軍女総大将として広田国に布陣→天照大神亡き後、ヒミコ分身（天照大御神荒魂）→廣田神社祭神→荒祭宮祭神

〔伊雑（いざわ）宮〕（三重県志摩市磯部町）、皇大神宮（内宮）の別宮で、主祭神は天照大（御）神御魂、相殿に玉柱屋姫命（伊佐波登美神）を祀る。『皇大神宮儀式帳』では、祭神は天照大神御魂とされる。古くから、天照大神の遙宮と呼ばれてきた。

伊雑宮の御師西岡家の文書には、「祭神の玉柱姫（玉柱屋姫）は里に座す天照大神分身、瀬織津姫は河に座す天照大神分身」とあるそう。要するに、玉柱屋姫も瀬織津姫も、天照大神分身と言うに等しい。

古来、漁師・海女の崇敬が厚く、伊雑宮で授かる磯守を身につけて海に入るのが風習として続いできた。旧暦六月二四日に伊雑宮のご料田で催される古式豊かなお田植祭りは、香取神宮、摂津住吉大社のお田植祭りとともに、日本三大御田植祭りとして有名である。

〔瀬織津（せおりつ）姫（比咩）〕、大祓詞に登場する祓戸四柱の神（祓い清めの神）の一神で、水神。『倭姫命世記』や『伊勢二所皇太神宮御鎮座伝記』に、「皇太神宮荒魂、一名は瀬織津比咩神」、「天照荒魂、亦の名は瀬織津比咩神」とあるそう。『中臣祓訓解』も「大祓詞」に登場する瀬織津比咩について、「伊奘諾の禊払いに登場するマガ津日神であり、天照太神荒魂」と伝える。

「大祓詞」、「・・・遺る罪は在らじと祓え給い清め給う事を 高山の末 短山の末より 佐久那太理に落ち多岐つ 早川の瀬に坐す瀬織津比売と云う神神、大海原に持ち出でなむ・・・」

〔瀬織津姫と巖之御魂天疎向津媛〕、江戸期以前、六甲は務古、武庫と記載され、六甲山（最高峰、九三〇^一）はむこう山、むこ山と呼ばれた。武庫川の名はその名残だ。六甲山全山も向津峰と呼ばれて、廣田神社の社領だった。ところが何故か、山頂から東一^キロメートルほど離れた所にある六甲山

神社（西宮市山口町）は、六甲山大権現を白山の神、菊理媛命として祀ってきた。

一方、六甲山頂南西三キロメートルに鎮座する六甲比命神社（灘区六甲山町）は、縄文人が巨石を積み上げて造った磐座を六甲比命（向か津姫、瀬織津姫？）大善神として崇め、後世、これを瀬織津姫（撞賢木厳之御魂天疎向津媛命）の御神体として奉ってきた。六甲比命講の伝えるところでも、「当社は廣田神社の奥宮であり、かつ内宮第一別宮、荒祭宮の奥宮であった」としている。

『ホツマツタエ』には、「天照大神の皇后（瀬織津姫）が、天照大神名代として活躍した」由が記されているような。

ならば、天之国を離れて瑞穂の厳之国に遷る天照大御神も、自身の分身に引き立てた瀬織津姫と同様、厳之御魂天疎向津姫と呼ばれて然るべきだ。

神功は新羅遠征にあたり、五十鈴宮に居ます神々に神託を請うた。すると、神が鳥賊津使主に神憑りしてきて告げた。

「新羅は、皇后の孕める皇子が治めるところの国だ」

後日、彼女はこの神託をもっと確実にしておきたいと思い、再度のお告げを請うた。

「先の神託は、どの神のお言葉でしょうか。御名を知りたいのですが」

すると、神子は予め教えられていた通りに告げた。

「伊勢国度逢^{わたらい}県^{つぎ}の五十鈴宮に居ます撞賢木厳之御魂天疎向津姫（天照大御神）の思し召しによる。更に尾田の吾田節淡郡（志摩国答志郡）に坐す神（稚日女）、ヒミコのお告げを取り持った天（厳）之事代主、日向国橘の小門に座す住吉三神のたつての悲願であるぞ」

「神功紀」「皇后、吉日を選びて、斎宮に入りて、親ら神主と為りたまう。・・請して曰さく、『先の日に天皇に教えたまいしは誰の神ぞ。願わくは其の名をば知らむ』ともうす。

七日七夜にいたりて、答えて曰わく、『神風の伊勢国の百伝^{もも}う度逢^{わたらい}県の拆鈴五十鈴宮に所居^{さくすず}ま

す神、名は撞賢木巖御魂天疎向津媛命』と。亦問いもうさく、『この神を除きて復^お神有^{また}すや』と。答えて曰わく、幡^{はた}荻^{すすき}穂に出し吾や、尾田の吾田節の淡郡に所居^おる神有り』と。・・・」

〔伊射波神社〕（三重県鳥羽市安楽島）、「諸国一の宮」によると、祭神は稚日女尊ら五柱。

神功は新羅征伐の帰途、務古水門（武庫川河口）に到り、天照大御神ら神々に神意を卜ったところ、天照大御神が誨えるには、「我が荒魂（天照大御神荒魂）をば、広田国に居らしむべし」

稚日女（稚産霊）が誨えるには、「吾は活^{おし}田長^{いくた}峽^{ながお}（長峽？）国に居らむとす」

住吉三神が誨えるには、「吾は和魂をば、大津の渟中倉の長峽に居さしむべし」

との神託を授かった。これが廣田神社、生田神社、本住吉神社の創祀につながった。その結果、大乱勃発時の陣形が当時に近い状態で再現され、今に引き継がれてきた。

〔廣田神社〕（西宮市）、主祭神は、天照大御神荒御魂（撞賢木巖之御魂天疎向津媛命）。由緒縁起に、「祭神は瀬織津姫命」とあるそう。伊勢神宮内宮の第一別宮荒祭宮祭神（天照坐皇大御神荒御魂）と同じとされる。当初は甲山山麓の上高隈原に鎮座していたが、後に御手洗川沿いに遷座した。江戸期に現在地に遷ったという。

〔生田^{いくた}神社〕（神戸市中央区）、祭神は、稚日女尊。いつの頃か、北の布引山（砂山）に鎮座していたが、七九九年の大水害で山麓が崩れたため、現鎮座地の生田の森に移ったと伝わる。

〔長田神社〕（神戸市長田区）、主祭神は、事代主神（於天事代於虚事代玉籥入彦巖之事代主神）。

〔本住吉神社〕（神戸市東灘区）、主祭神は底筒男神。配神は、中筒男神・表筒男神（住吉三神）、神功皇后、天兒屋根命、大山津見命。

〔内宮第一別宮 荒祭宮〕、祭神は、天照坐皇大御神荒御魂とも天照大御神荒御魂ともされる。正宮北に鎮まる荒祭宮は、かつて正宮西隣りに鎮座して、儀式全てが正宮に準じて斎行されてきたという